

群馬の自然

特集 ぐんま百名山の自然XI
日光付近の山々

No.169
2013 夏

特定非営利活動法人(NPO)
群馬県自然保護連盟
URL <http://www5.wind.ne.jp/shizen/>
e-mail shizen@dan.wind.ne.jp



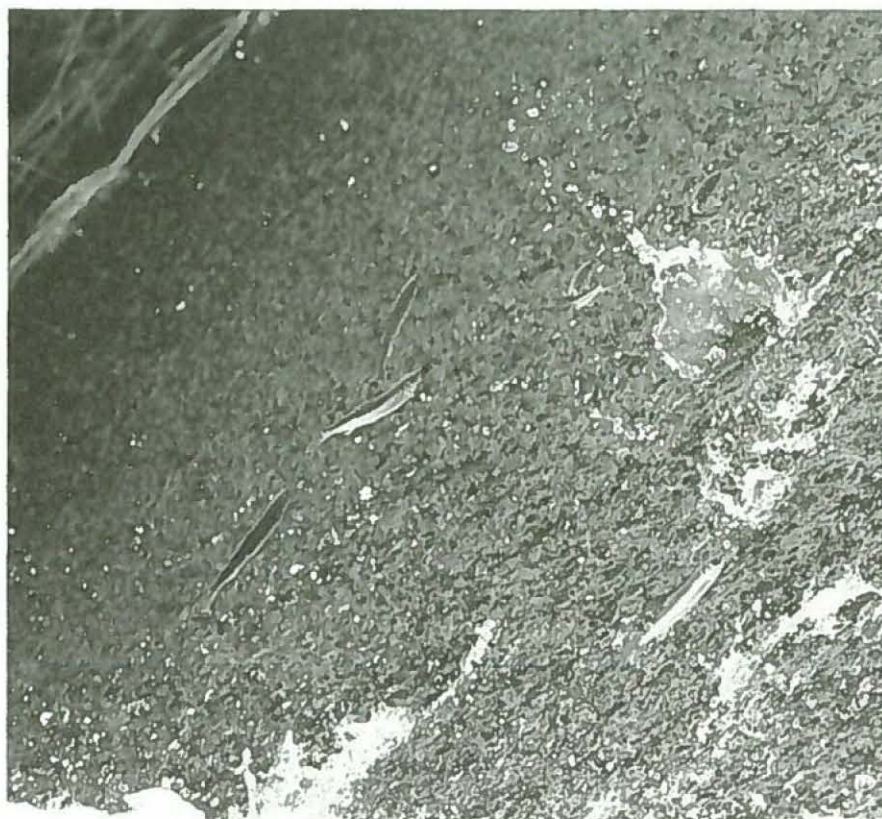
ウバタムシ

季節のたより(3)

天然アユの遡上

三井田 進

この年は大量の天然アユが海から遡上。朝から夕方まで、とぎれることなく堰を越えていった。水質が改善された証と思われる。



撮影 安中市宿碓氷川堰 (2010. 6)

目次

表紙	ウバタマムシ	水村 聡子	1
季節のたより(3)	天然アユの遡上	三井田 進	2
特集	ぐんま百名山の自然XI 日光付近の山々		
足尾山塊全山縦走			
錫ヶ岳		関 敏雄	3
		卯木 達朗	7
行事報告			
自然観察教室	高尾山(4月7日実施)	里見 哲夫	9
自然観察会	荒山高原(5月26日実施)	小林 節子	11
植物歳時記(62)	ヒトリシズカ	吉田 龍司	12
図鑑の内と外	植物私記③8 オノエヤナギ	佐鳥 英雄	13
群馬の地質	石棒	飯島 静男	16
植物をミクロで見る(10)	マスクサ	青木 雅夫	17
残された自然の中で(161)	サシバの谷	谷畑 藤男	18
谷川岳エコツアーコース散策		部 正雄	19
情報提供ありがとう			
平成25年度総会報告			
事務局日誌(169)			
表紙の説明・事務局だより			



セツカ

集 ぐんま百名山の自然Ⅵ 特 日光付近の山々

「足尾山塊」全山縦走

関 敏雄

● 一日目 10月12日(火)

菅沼登山口～奥白根平「避難小屋」

昭和46年6月、皇海山にはじめて登つての帰路、雪の残る日光白根山や錫ヶ岳を見て足尾山塊の縦走を思いたった。足尾山塊とは、群馬、栃木の県境を背骨のように南北に連ねる山脈で、北から日光白根山、錫ヶ岳、宿堂坊山、三俣山、皇海山、鋸山、法師岳、袈裟丸山等2000m級の山々からなり、昭和39年栃木岳連によって全山にわたる縦走路が開かれたが、全山縦走を試みる人は年に数人で、私自身、今までに2回しか縦走していない。

23歳のとき、初めて全山縦走した昭和46年10月12日から16日まで、4泊5日の記録を見つけて懐かしくなり、当時の記録を思い出しながら書いてみた。

朝4時、友人に頼み渋川から自分の車を縦走最終地点の袈裟丸山折場橋に置き、足尾、中禅寺湖を経て金精トンネルを抜け日光白根山の菅沼登山口まで送ってもらう。車中「山へ行く時はいつも一人だけなぜ？」と聞かれ「連れがいないと面倒くさいから」と答える。登山口に11時前に到着。友人は「こんな山で遭難しても誰も捜しにこないからな」と言い残し帰っていった。装備は数が多いためポケットのないアタックザックにツエルト、シュラフ、雨具、鉈、ナイフ、オプチマス123のガソリンコンロ、ガソリン1ℓ、ライト、コッヘル、1ℓの水筒、ライター、マッチ、食料は餅20枚、即席味噌汁10袋、忘れてならない缶ピース2個、その他カメラ、双眼鏡で約15kg、そんなに重くない。足元はいつもの長靴。

今朝、妻に作ってもらった大きなおむすび3個のうちの1個を食べ、11時30分出発。奥

白根平の避難小屋から国境平を除き皇海山までは未知の世界で不安もあるが、5万分の1の地図と磁石、それに勇気だけが頼りだ。

誰もいない登山道は深い森林に包まれ1時間50分で弥陀ヶ池に着く。水面にはダケガンバの黄葉と針葉樹の緑が映り、眺めながら一服した後最初のピークである日光白根山に向かう。樹林帯を抜け足元の悪いガレ場を越え頂上に着く。標高2578mの山頂は関東以北の最高峰で360度の展望に恵まれ、明日から歩く県界尾根の大きな峰が目に見える。山頂から東へ下り奥日光平の避難小屋に5時間前に着く。避難小屋はことごと、前袈裟丸山と小袈裟のコルにある避難小屋だけで途中には無い。一度縦走を始めたなら安全なエスケープルートは殆どなく、最後まで歩く覚悟を決めなければならぬ。

残りのおむすびを2個食べお茶を飲み、タバコを吸いながら明日からの縦走に思いを馳せる。外は曇っていて星は見えず、今日の想いをノートに記し午後8時シュラフに潜る。年に5、60回山へ泊るが、屋根の下で寝られるのは1度あるかないかな？何時もリュウ(岩穴)で寝るか野宿だ。

★歩行…5時間30分(休憩含む)

●二日目 10月13日(水)

奥白根平避難小屋(1991m峰南コル
快適な一夜を過ごし、朝4時起床。ライト
を灯し五色沼で洗顔。水筒に水を補給し避難
小屋に戻ってタバコに火を点ける。陽が明け
始める5時に出発。避難小屋横の前白根山へ
の踏み跡を辿り、尾根へ出たところから長い
縦走が始まる。この尾根は白錫尾根と呼ばれ、
北から白根隠北峰(2385m)、白根隠本峰
(2410m)、白根隠西峰(2394m)と
もう一つ(2296m)の4つの大きなピー
クを超えて行く。歩き出して直ぐに目の前を
シカが逃げていった。笹は茂っているが踏み
跡ははっきりしていて、木々の間から朝日に
照らされ堂々と聳える日光白根山が垣間見え、
時々立ち止まっては眺める。白根隠本峰(2
410m)で一服し錫ヶ岳に向かう。白根隠
西峰(2394m)を過ぎた辺りから笹が深
くなり道も不明瞭になる。いたるところにシ
カ道があるが、稜線を外れないように小枝に
巻かれた目印の赤いテープを探しながら岩の
間や深い笹の踏み跡に行く。非常に辛い急坂
を喘ぎながら登り、10時半前にやっと錫ヶ岳
山頂に辿り着き汗を拭う。

西に笠ヶ岳(2246m)、三ヶ峰(203

2m)、峰山(1982m)から平川の奈良集
落へと続く長い尾根が紅葉に燃え、北に昨日
登った日光白根山、東に水面の輝く中禅寺湖、
紅葉の男体山、南はこれから目指す宿堂坊山、
三俣山と、その先に一際大きな皇海山が「こ
こまで来られるか」と、どつしりとかまえて
いる。一服し宿堂坊山を目指し出発。ここか
ら三俣山までが縦走の一番大変なコースで深
い笹の中へ飛び込んで行く。2077mのピー
クを過ぎ、ニグラ尾根の頭で一服したのは良
かったのだが、西の尾根を30分も下って間違
いに気づき、戻るのに1時間もかかってしまっ
た。たぶん平川の平滝へ下るニグラ尾根のルー
トに迷い込んだのだろう。歩き始めるときに
「地図と磁石で確認すればよかった」と後悔し、
重い足取りで南東尾根の笹の踏み跡を下るが、
しよ気ている自分が情けなくなってきた。「こ
んなことなら先が思いやられる」と自分に言
い聞かせながら「行けるところまで行けば良
い」と気持ちを切り替えて笹藪をかき分けな
がら歩く。午後2時、次のピークでお湯を沸
かし、餅3枚を即席味噌汁に入れたいつもの
昼食。毎日朝食は食べないので空腹は感じな
い。一服した後、午後2時30分出発。今度はしつ
かりと地図を読み、踏み跡と赤いテープを確

かめながら降る。「誰が付けてくれたのだろう
か？」この赤いテープは縦走する上で大変に
ありがたく貴重なものだ。時々シカ道に引き
込まれるが、その都度慎重に縦走路に戻る。
午後4時30分、1991m峰を過ぎたコルに
着き、今夜はここに泊まることにする。東に
2分くらい降った樹林内に畳2枚位の平坦地
を見つけ青葉を敷きツエルトを張る。少し風
があるが気にせず餅2枚を食べ、今日の苦い
思いを記して樹林の暗闇で一夜を過ごす。

★歩行・11時間30分(休憩含む)

●三日目 10月14日(木)

1991m峰南コル(国境平

2時に目が覚める。ツエルトから顔を出す
と真っ暗な樹林の間から、たくさんの星がす
ぐ近くに見える。5時に起きて支度を整え一
服して5時30分出発。昨日の失敗はしたくな
いのでゆっくりと歩く。それにしても笹が深



カモシカ

い。7時ネギト沢のコルに着く。シラビソの
大木に「水↓5分」と書かれた小さな板が打
ち付けてあり、踏み跡を頼りに降りて行くと、
ネギト沢の水場があり、半分残っている水筒
を満タンにし、カップに3杯飲干して喉を潤
し一服してから出発。笹藪から原生林に変わ
り、踏み跡を急登して8時に宿堂坊山頂（1
968m）に着く。ダケカンバに「宿堂坊山」
と書かれた板切れが釘で打ち付けてある。昨
日のことを思うと「よくここまで来られた」
と我ながら感心する。

今日は国境平まで行く予定なのでタバコを
立続けに2本吸って出発。降るにつれて笹が
自分の背丈を超えるほど深くなり、何処を歩
いているのか分からなくなるが、迷わないよ
うに慎重に踏み跡を見つけながら一步一步進
む。登るにつれ笹も少なくなり、樹林帯の急
登が続く。踏み
跡もはつきり
してきた。宿堂
坊山から3時
間30分休まず
歩き通して、丁
度12時、縦走中
で一番奥深い



シカ

三俣山（1980m）に到着。ここから東は
シゲト山、黒檜山、社山、半月山と中禅寺湖
南岸尾根が続く。少し西側に行くと展望が開
け、紅葉の坪川溪谷の見事な眺めを満喫した。
朝出発してから6時間30分。お湯を沸かし餅
2枚を入れ柔らかくなったら火を止め即席味
噌汁を混ぜて昼食。タバコに火を点しお茶を
一杯飲んで12時30分に出発。急な尾根を下る
と渡良瀬川松木沢支流の釜の沢源流だ。栃木
県側は釜の縁のように切れ落ちている。この
源流の5ツのピークを称してカマ五峰と呼ば
れ、北から1峰、2〜5峰と続いている。3
峰から4峰にかけては「オカマノゾキ」と云
いちよつとスリルがある。崩れの中にシカが
4頭と近くにカモシカ1頭がいた。5峰を過
ぎ1時間弱で砂地のコルになる。ここはカモ
シカ平と名付けられ、泊まり場に適した所だ
が、この先の日向山（1695m）南のコル
にある国境平は先月、松木沢支流ニゴリ沢か
らモミジ尾根を登り、来ていて水場の様子は
わかつていたので先を急ぐ。午後4時、国境
平に着く。

ザックを降ろして汗を拭き、タバコを吸い
ながら松木溪谷を眺めていたら、目の前のモ
ミジ尾根沿いにイヌワシ3羽が悠々と旋回し

ている。中の1羽は黒っぽく両翼と尾に目立
つ白斑がある。「今年の幼鳥だ！」

15分くらい飛んで松木沢下流へ消えて行った。
その光景をしっかりと脳裏に焼き付け、ツエ
ルトを張る。陽が西に傾き目の前に聳える皇
海山がシルエットになり始めた午後6時、餅
2枚を食べお茶を飲みながら焚き火を見つめ
今日の記録を記し、午後8時シュラフに潜る。

★歩行・10時間30分（休憩含む）

●四日目 10月15日（金）

国境平〜小法師尾根分岐

近くで発情期特有の雄ジカの長く甲高い鳴
き声で3時に目が覚める。そういえば縦走中
幾度となく聞こえたが、じっくり聞くと余裕も
なかった。シュラフから出てツエルトから顔
を出したら、近くにいた4〜5頭のシカが
「ピョッ、ピョッ」と鳴きながら、白い尻（尾鏡）
を広げ鈴小屋沢へ駆け降りて行った。空は曇っ
ていて星は見えない。今日は法師岳か奥袈裟
丸山まで行く予定だが、昨日見たイヌワシが
忘れられず「あと1日ここに留まるか？」と
考える。休みは17日の日曜日まで取ってある
が妻や友人に「16日には帰る」と言ってきた
ので心配すると思い、後ろ髪を引かれる思い
で出発することにした。

鈴小屋沢で水を汲み6時に出発。皇海山北面の樹林内の急坂を「ハー、ハー」と息を切らせながらひたすら登る。錫ヶ岳から眺めた時は雄大な山に見えたが、こんなに辛い山だとは思ってもみなかった。「こんなに大事なら国境平からモミジ尾根、松木沢を下り足尾の間藤に行くエスケープルートを取れば良かった」などと考えながら、樹林内の踏み跡を20分登りタバコを1本吸い5分休むことを繰り返し、9時にやつとの思いで皇海山頂(2144m)に着く。記録には「皇海山北面はこりごりだ、もう2度と登りたくない」と書いた。タバコの吸い過ぎか、喉の渇きに耐えきれず残っている水を一気に飲み干す。ここから先は何度も来ていて様子も分かっているの山頂で1時間休憩。青銅の剣を拝んだあと、鋸山を目指す。皇海山南面のシラビソ林でリスが2頭追いかけてっことをしている。不動沢のコルで一服し、水場へ行き流れに口をつけてガブ飲みし、空になった水筒を満タンにする。鋸山北面の鎖場を登り、11



イヌワシ

時30分頂上(1998m)着。振り返れば、今越えてきた皇海山が曇り空の中ぼんやりと見える。7月に来た時この山頂で初めてプロツケンを見たことを思い出しながらカップに1杯水を飲み一服して12時出発。笹の踏み跡を一気に降り女山(1836m)を過ぎ午後1時30分黄色に染まったダケカンバの葉が奇麗な六林班峠に着き、今日初めての食事を摂る。餅3枚を食べ峠から10分くらいの栃木県側に降りた沢で水を汲み午後2時30分出発。ここから庚申山荘、銀山平を経て足尾の切幹に降りるエスケープルートもあるが、「ここまで来たからには全山縦走」と意気込む。今朝の弱気は何処えやら、背文を越える深い笹の中シラビソ林の不明瞭な踏み跡を最初のピーク男山(おやま・1857m)を越え、次のピーク法師岳(1941m)で一服し、小法師尾根分岐のコルに午後4時少し前に着く。

以前、袈裟丸山からこの小法師尾根を足尾の原向へ下りた事があったが、今回はあくまで全山縦走なので今日はここで泊まることにする。周りの笹を鉈で刈り払い、刈った笹を敷きツエルトを張る。湯を沸かし残っている8枚の餅から4枚を食べ、タバコを吸いながらお茶を飲み、小さな焚き火を見つめ今日までの縦走を振り返る。3日間誰にも会わずこの大自然を独り占めしている優越感に浸った後、真つ暗な闇の中、もの思いに耽りながら今日の記録を記し午後7時シユラフに潜る。

★歩行・10時間(休憩含む)

●五日目 10月16日(土)

小法師尾根分岐・袈裟丸山折場橋

風の音で夜中の1時に目が覚める。周りの木々が「ゴー、ゴー」とすごい音で揺れ、枯れ木の空洞から「ビュ」と虎落笛が聞こえる。以前袈裟丸山のリュウ(岩穴)に泊まった時も同じ体験をした。雨や雪は気にならないが強風には参る。樹林下のツエルトは揺れないが風が五月蠅くて眠れない。ツエルトの中で膝を抱え、タバコを吸いながら、自然の中では人間の無力を思い知らされる。それでも山で暮らす人達は山中で生きる知恵があり、雨や雪の中でも火を起し、野宿する時はマツやスギ、コメツガ等の青葉を敷き、その上に寝ると地面からの冷えを防げる。山で迷った時は周りの景色を見てスギやヒノキ、カラマツの「植林地」を目指せば必ず峠道がある。とか、獣道と人が歩く道の違いや、足跡を読み何の動物がいつ頃、どちらの方角に行ったのか大さはどの位か等、自分も袈裟丸山で山仕事

をしている人達から、沢山のことを学んだことが今回の縦走や動物調査で大変役立った。

4時風が止み満天の星にしばし見とれる。

じつと空を眺めていると実に多くの流れ星があり20分間で6個もあった。今日はいよいよ縦走最終日だ。ここから南は奥袈裟、中袈裟、後袈裟、前袈裟、小袈裟と続き袈裟丸連峰と呼ばれている。朝7時に出発、20分くらいで最初のピーク猿岩岳(1932m)に着く。この辺りからシラビソからコメツガに変わる。

8時、奥袈裟丸山(1958m)着。やっとホームグラウンドに帰ってきた。一服後出発。これから先は何度も来ているので手に取るようにわかる。西面は利根川の支流倉見沢、東面は渡良瀬川支流の餅ヶ瀬沢が一気に切れ落ち、目も眩むような懸崖になっているが、この尾根は深いコメツガ林に包まれ深山の雰囲気漂っている。樹林帯を下り、広い笹のころに着いた時、クマが笹の中をうろついている。しばらく伺っていたら倉見沢のシャクナゲの藪に下りていった。

中袈裟丸山(1903m)への急斜面を登り9時山頂到着。ここでは休憩を取らず後袈裟丸山を目指す。急斜面を降りころから再び急登して9時30分後袈裟丸山(1908m)

の狭い山頂に飛び出す。正面に前袈裟丸山、西に赤城山が大きく佇んでいる。何度もこの山頂には来ているが、今までで一番印象に残る景観だった。以前この山頂で雷に遭い、普通1時間30分かかかる郡界尾根を、新地林道袈裟丸支線の終点まで、泥だらけになりながら35分で駆け下りたことを思い出す。一服したあと八反張のころを越え10時20分、27回目の前袈裟丸山頂(1878m)に到着。記念写真を撮り小袈裟の手前ころにある避難小屋と水場を目指す。11時30分避難小屋に着き早めの昼食をとる。残った餅4枚を食べお茶を飲み一服して出発。小袈裟(1676m)頂上でタバコを吸い振り返り、袈裟丸連峰、皇海山、庚申山、男体山、日光連山を眺め「よく歩いたものだ」と我ながら感心する。賽の河原を一気に過ぎ、ツツジ平の紅葉を横目で見ながらカンカン場の水場で最後の水を飲み一服する。ここまですれば駐車車輛まであと10分だ。苦しい藪漕ぎや、迷ったこともあったが、怪我もなく全山縦走出来たことに自己満足する。

午後1時30分最終地点「折場橋」に到着。100本持参したピースは6本残っていた。計算通りだ？

折場沢で5日間履き続けた長靴、感謝を込めて丁寧に着替える。帰路、紅葉の始まった「小中の大滝」を見学してから家路に向かう。今夜は久しぶりに風呂に入れると思うと、疲労は飛散し、ひとり自然と顔がほころぶ。

◆歩行…6時間30分(休憩含む)

昭和46年10月12日(火)〜16日(土) 歩く

※2回目の縦走は、同じコースを4年後の昭和50年9月に3泊4日で歩いた。

平成25年5月26日記す

錫ヶ岳

卯木 達朗

群馬・栃木の県境に位置し海拔2380mの山容はひと目見ただけであったが、一度は登ってみたい魅力を感じさせる山である。

日光白根山(2577.6m)には数回登ったことがある。特に7月下旬は岩陰に咲くトウヤクリンドウが見事で、それを見たく再挑戦を何度か企て、その度毎に錫ヶ岳への登行を何度も試みたことか。だが距離的に長く、日帰りは無理だと一人決めて延び延びになっ

ていた。今回は何が何でも錫ヶ岳まで歩かねばならない羽目になった。県のレッドデータブック作成での鳥類調査の為である。

時期は2011年7月下旬、コースは国道120号線の菅沼登山口から弥陀ヶ池を通り白松岳を経て白錫尾根を辿って山頂に至る。距離約往復16kmだが夜の鳥も記録したいので途中で一泊すれば案ずるほどのこともない。

群馬県の調査なので栃木県側は通らないことにする。

ただ年齢的に重装備はできるだけ避けたい。山小屋は五色沼の上部にあるが栃木県側でもあり時間的にロスが大きい。10年来使わなかったツエルトザックを引っ張り出し、食料はインスタントで間に合わせる。それでも日帰りとは違った荷重を肩に感じるが、久方ぶりのテント生活、それも気ままな一人旅とあつて胸が躍った。

早朝5時過ぎ菅沼駐車場を後にする。沢沿いに登る勝手知った路だが、来る度毎に感激度が違うのは歳のせいなのか、ミソサザイ、コルリ、カワガラス、キセキレイと記帳していると、急に目の前から「キヤラ」叫び声と共に赤い物体が森に消えた。思わず「ウアー」と驚きの声が出る。アカシヨウビンであつた。

登りはじめてから2時間30分、弥陀ヶ池に着く。樹相はコメツガ、シラビソ、オオシラビソ、ネズコ、トウヒと針葉樹林特有の静かな佇まいで亜高山帯を棲みかとするメボソムシクイ、ルリビタキ、ヒガラ、コガラが盛んに啼く。「ビュー」と空気を引裂く声のシカの声も行く先々で耳にする。この辺一帯はシカネアオイが多く、シカの食害を守るための防鹿柵が彼方此方の山をおおっている。

弥陀ヶ池から白根山へは、急登を1時間ほどだが、ゆつくりと記録するので2時間ほどかける。白根山頂(2577m)は登る予定はなかったが、時間があるのでリュックを仮置して登行。既に登頂している人がいて、私の腕章を見ながら「何の調査か」と気さくに声をかけてくる。

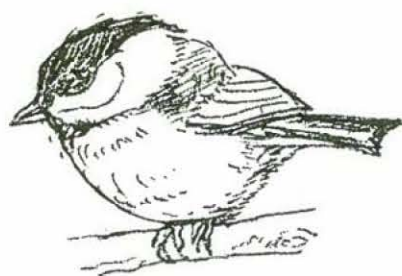
錫ヶ岳の話、鳥のこと、他愛もないおしゃべりは時の経つのを忘れさせてくれる。

栃木県との県境沿いを下った所に五色沼方面へ下る分岐点がある。県境沿いに錫ヶ岳への指導標があり、尾根通しに白松岳2394m手前の白根平まで行く。ここで一夜を過ごすためにツエルトを張る。尾根道とはいっても平坦な場所で、針葉樹林に囲まれての一夜は「夜の鳥」の期待で夢は膨らむ。

午後8時。西の空は明るさが失せ夕闇が迫るとヨタカが啼く。フクロウの声もする。しかし残念ながら栃木県側の山腹だ。耳をすませても聞こえるのはシカの叫び声のみ。見慣れぬテントを警戒しての叫びなのか。

早朝4時。テントをそのままにして出発。無駄に精力を費やさないための秘策で、帰りに撤収する予定だ。コマドリが下方の沢から啼く。ルリビタキ、メボソムシクイも多い。目の前に丘のように聳える白松岳が笹の薄い緑に映え頂上部にシラビソの樹梢が連なる。ルート上の目印は結構多くあり安心して歩けるが、鳥を追ってコースを外れると、元の道が判らなくなり肝を冷やしたりする。

何時の頃からか、錫ヶ岳尾根を起伏の少ない「白錫尾根」と呼ばれ知られるになった。



コガラ

尾根なので水場は無いものと覚悟はしていたが、コマドリの声が行く先々でするので沢が近いと期待していると、水場の標識に出会う。飲料水は持参しているが、「水場」があると気持ち落ち着く。

樹林に覆われた尾根道でも何ヶ所か池塘をみつける。鳥や動物の水飲み場になっているようだ。時折木々の合間に山容が見え隠れする。目指す錫ヶ岳と遠方に皇海山と赤城山。人の気配の全くない朝のしじまの中をツツドリが啼く。ジュウイチが啼きながら天空を駆けて翔ぶ。

野鳥調査で不可欠なのは午前中、若しくは夕暮れのひと時。出来うれば早朝の4時から6時までが最適である。この時間帯に歩きたくて野営したのである。白根平から錫ヶ岳まで普通の人なら20〜30分で歩く。同じ場所を私は4時間かけた。錫ヶ岳の登りで思いがけずオオアカゲラの声を聞く。絶滅危惧種である。全身震いするほどの感激で斜面を歩き回って探した。倒木の多い中でササに足をとられ転びながらその影を追った。亜高山帯のみに生息するホシガラスが、人の気配に驚き「ガーガー」と騒ぐ。

錫ヶ岳の山頂は標識が幾つもあつた。見通

しは悪く苦勞して登った爽快さがない。三等三角点を探すと、ササの中に御影石に刻まれた標石があつた。

眺望を楽しもうと踏跡を辿って南へ行くと、視界が開け宿堂坊方面への道が続く。遙か彼方に懐かしい皇海山、左手に庚申山、稜線続の低いコブが宿堂坊と三俣山だ。その遙か上を鳥界随一の速力をもつハリオアマツバメが風の音を切って飛ぶ。この界限では武尊山、至仏、笠岳、利根源流のみに棲む。やはり絶滅危惧種だ。

午前9時帰路に着く。大好きな亜高山鳥の囀りの中、白錫尾根を引き返す。時間的に余裕があるので、ハクサンチドリやハンゴンソウの咲く草原を五色沼へと下る。

弥陀ヶ池で休憩し、菅沼登山口まで降りる間、野鳥たちのコーラスを全身に浴びる。「思い出」深い野鳥達との2日間のコースであつた。今回の調査では36種の鳥類が記録された。



ヒガラ

行事報告

4月7日実施

春の自然観察教室

「高尾山自然観察教室」に参加して

里見 哲夫

2013年4月7日(日) 実施予定の春の自然観察教室は、数日前からの気象情報は極めて厳しいことが報じられていました。前線の通過に伴って大雨、強風による大荒れ、外出は控えるようにとのことでした。今回は特に参加者が多く、事務局皆さんのご心痛は大変だったことと察した次第です。もしものときにはと代案まで計画されていたの慎重さでしたが、出発時点には運良く晴れ間も見え出して、多分心配ないことが確認できほつとしました。本日の主テーマは「サクラとスマイレの探訪」、資料はすぐく充実したものでファイル入り、多分雨天にも気配りしてのもの感激一入と感謝したところです。

高尾山は標高599mの低い山ですが、その歴史は古く奈良時代の744年(天平16)行基菩薩の開創といわれ、薬王院有喜寺の存在が大きな意味を持っています。周辺の森林は寺領か

ら江戸時代には幕府の直轄となつて、その後
帝室御料林、現在は国有林となっています。
1967年(昭和42)には「明治の森国定公園」
に指定されて、東海道自然歩道の起点となつ
ています。山の森林は、信仰上の理由から保
護されて現在に至っているものと思われま
す。ところどころに見られるスギの巨木はその歴
史を物語るものでしょう。

複雑な地形を有するこの山の植物は豊富で、
多くの研究者が訪れ、1889年(明治22)
には松村任三博士が「武州森林植物録ノ為ノ」
という文献を発表したのに始まって、多くの
研究文献が発表されています。この山で初め
て発見されて、名前のついた植物は30種類
を超えています。「タカオ」という植物として
はタカオシケチシダ、タカオイノデ、タカオ
ヤブオ、タカオフウロ、タカオスミレ、タ
カオホオズキ、タカオホロシ、タカオヒゴタイ、
タカオスゲ、タカオワニグチソウ等が知られ
ています。

高尾山駐車場到着が7時50分、周辺の山々
を眺めると若葉の中にヤマザクラが沢山目に
入ります。ヤマザクラは群馬県には極めて稀
で、主な産地は前橋の橘山、高崎の観音山と
その周辺だけではないでしょうか。ケーブル

カー駅前のソメイヨシノはすでに散っていま
した。ケーブルカーからの車窓にはミツバツ
ツジ、アヅマシャクナゲの花、カエデ類の若
葉など、その下にミヤマキケマン、カタクリ、
ニリンソウ等の花が咲いていました。山頂駅
に降りると沢山の植物が一挙に目に止まり、
メモに追われました。草本としてはタチツボ
スミレ、ノキシノブ、ベニシダ、クモノスシダ、
カンアオイ(多分タマノカンアオイ)、ノブキ、
シヤガ、ミミガテンナンショウ、チゴユリ、
ミヤマカタバミ(カントウミヤマカタバミ)、
ナガバノスミレサイシン等、低木にはヤマブ
キ(花)、アオキ(花)、ニワトコ、ヤブツバキ、
ミヤマシキミ(花)等々、高木にはスギ、カヤ、
シラカシ、アカガシ、アラカシ、イヌブナ、ブナ、
カエデ類等々。特にアオキの雄木、雌木の花
が見られましたので少々説明をしました。が、
昨年の実が赤々と輝いていました。つる植物
ではキジョランが、本種は常緑の多年生のつ
る植物で、各所に多数見られましたが、アサ
ギマダラという蝶がこの葉に産卵します。キ
ジョランの分布は関東以西で暖地性植物です。
薬王院までの間にはスギの巨木が多数目に止
まりましたが、あまりの太さに歴史の古さを
感じ取りました。ミヤマシキミの花は多くの

人達がカメラに収めていました。寺の境内に
1株トウゴクミツバツツジが咲いていました
が植えられたもののようでした。東日本に多
いところからトウゴク(東国)の名前がつき
ましたが、開花と葉が同時で、雌しべは1本、
雄しべは10本です。ミツバツツジは雌しべは
1本、雄しべは5本で、葉の出る前に花をつ
けますので参考にして下さい。そんな事をし
ている間に野帳を落として金井理事長に拾っ
ていただくハプニングもありました。急坂の
道下のキツコウハグマを眺めながら登りあげ
ると大きなツルグミがあり、小さな実が沢山
ついていました。ビジターセンター付近は展
望もよくスカイツリー等や京浜方面の眺めも
堪能できましたが、問題は展望をよくするた
めに高木を伐採する等の配慮もなされていま
した。が少々違和感を感じとりました。ビジター
センターも急いで見学できました。昼食は一



エイザンスミレ

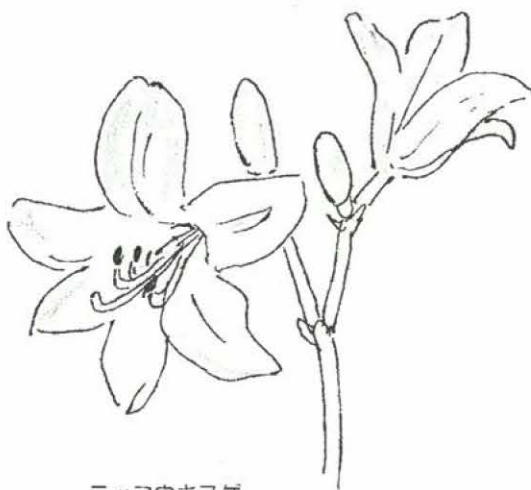


タカオスミレ

丁平ですませましたが、強風を肌感じとる貴重な経験も出来ましたが倒されそうになりました。ここでは八重咲きのクサボケやサクラの観察も楽しむことが出来ました。急坂道は少しこたえましたが周辺の植物に気を取られながら登りつめて、全体写真は城山分岐点で撮影をしましたが38名が揃うのは大変なことです。ここからの道のりもかなりあつて、いよいよスミレの多い箇所となり目を放すことが出来ませんでした。道沿いに外来種も見られましたが、比較的少ないセイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、アメリカフウロ、シヨカッサイ等が見られました。法面にシバヤナギ、テリハノイバラ、ミヤマフユイチゴ等が、スミレ類にはタチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、マルバスミレ、アカネスミレ、ツボスミレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、ヒカゲスミレ、タカオスミレが次々に目に止まり、それぞれの箇所ですつくり堪能することが出

来て、本日の目的もほぼ達成したようです。

全体を通じて注目すべき植物としてメモした植物に、草本でタマノカンアオイ、ミヤマタニワタシ、ツクバキンモンソウ、ヤマリソウ、ヤマシヤクヤク、トウゴクシソバタツナミ、キツコウハゲマ、フッキソウ、アヅマヤマアザミ、カタクリ、エビネ、サイハイラン、ヤマユリ、タカオワニグチソウ、シロバナエンレイソウ、オオハナワラビ、アカハナワラビ等。高木ではアカガシ、コブシ、マメザクラ、ヤマザクラ、ブナ等。低木、つる植物にシバヤナギ、シキミ、ミヤマシキミ、ビナンカズラ、ヤエクサボケ、ツルグミ、テリハノイバラ、ミヤマフユイチゴ、オニシバリ、キジョラン等がありました。観察するのには少々時間がたりませんでした。各季節ごとに観察できると一層楽しいなと感じています。なお、いくつか訂正の植物も見られました。その一つはヤマルリソウでした。バスに乗り込む寸前の川の斜面に群生し花が見られましたが、乗車するのが忙しく多くの人に見ていただくことの出来なかったことを残念に思っています。天候にも恵まれて、一日楽しい春の自然観察教室が無事終了出来ました。心から感謝しています。予定通りの到着本当にご苦労様でした。



ニッコウキスゲ

5月26日実施

自然観察会

「荒山高原・荒山」に参加して

小林 節子

5月26日自然観察会、荒山高原・荒山に参加しました。天気に恵まれてたいへん良かったです。私は植物の名前は良く分かりませんが、今日はフデリンドウ、ツタウルシ、ミズキを覚えしました。このようにして少しずつ覚えていきたいと思っています。

今日は大変お世話になりました。またの機会がありましたら参加して行きたいと思っています。

植物歳時記 (62)

ヒトリシズカ(一人静)

吉田 龍司

岩陰のヒトリシズカを揺する風 龍司

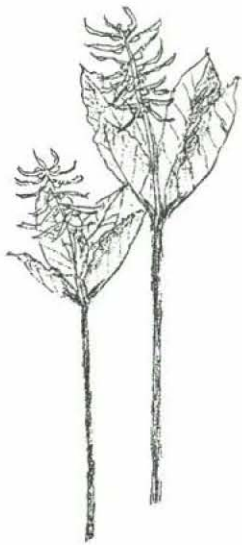
群馬県の天然記念物ヒメギフチョウ観察会は毎年五月の連休初日に充てられ20年になる。今年も「春の女神」に遇いに赤城山の西峰モロコシ山に出かけた。当日はぐんま自然観察指導員会の研修会と重なった上、遠くは横浜や近県からの参加者も多数いて大変な賑い。広場を臨時の駐車場に充て「赤城姫を愛する集まり」のスタッフも汗だくの忙しさだった。心配された天気も穏やかで、キャンプ場周辺のオオヤマザクラは花の盛りを過ぎてはいるが見応え充分。お目当てのヒメギフチョウにも期待通り再会できた。

参加者は何班かに分かれて三々五々山に繰り出して行く。山道にはヒナスミレ、ハルトラノオ、シロバナエンレイソウ、ヤマエンゴサク等に混じりヒトリシズカも散見される。

杉田久女の作で「杉の根の暗き所に一人静か」という句があるが、ヒトリシズカはその

ような湿り気のある緑陰を好む植物である。春先、植林された杉道の傍らに花を擡げ咲く風情に、楚々とした趣があり、特にご婦人たちに好まれるようだ。

ヒトリシズカの学名は、クロランツス・ヤポニクス。属名クロランツスとは「緑の花」、ヤポニクスは「日本の」意であり、センリョウ科センリョウ属の多年草でシボルトの命名である。分布は北海道から九州までと広い。特徴は地下茎が横に長く這い、その節から直立した茎を立てるので、かなりの面積に同一の株が林立する。茎は25 cm内外で枝はなく、茎の上端に対生する2対の葉を接して付けるが、一見4枚の輪生葉のようにも見える。葉には艶があり花時には長さ3 cm内外で、花が終わると10 cmほど大きくなる。その中心に長さ2〜3 cmの1本の花穂を立て、花穂に沢山の白い花を付けるが、花は萼や花弁のない裸花で、雌蕊と雄蕊だけの簡単な花の構造であ



ヒトリシズカ

る。雄蕊の白い花糸が3本に分かれていて、それが花のうちで最も目立つ部分となっている。3本に分かれた中央の花糸には葯がなく、左右の2本だけに葯がある。そして雄蕊は子房の横腹に乗っている。花が終り果実となる頃には、花序の軸がもとから曲がって、全体が葉の下に隠れてしまう性質がある。

ヒトリシズカの名は、正徳4年(1711年)発行の寺島良安著『倭漢三方図会』によると、その1本の花穂をもった草の物静かな姿が、源義経の話に出てくる「静御前の吉野山における歌舞の姿」に例えて名づけたとのことであり、別名をヨシノシズカ(吉野静)とも呼ばれる。

同じクロランツス属に、花穂が普通2本になるフタリシズカ(二人静)があるが、『倭漢三方図会』にはこれについても静女とその幽霊二人が合い対峙して遊舞する姿と見て、命名されたと述べている。

ヒトリシズカとの相違点は、茎は30〜50 cmと大型で、葉の鋸歯は浅くて葉面に艶はなく、4枚が2段に対生する。花穂は2〜3本立て、白い粟粒のような雄蕊は1花に3本つける。花期はヒトリシズカより遅く初夏で、人の好みにもよるが、私には何処となく少し野暮っ

たい感じに思える。

ヒトリシズカに近縁の植物に「キビヒトリシズカ（吉備一人静）」というのがある。学名をクロランツス・フォルツネイといい岡山県で発見、命名された。本州南西部、四国、九州北部に稀に分布する植物で、以前、栽培品を友人に見せてもらったことがある。しかし未だ自生地ではお目にかかったことのない植物である。特徴は花糸が10mmと長く、3本の雄蕊にはどれにも葯があり、明らかにヒトリシズカと趣が異なる植物であった。

ヒトリシズカの方言を調べるため『日本植物方言集成（八坂書房編・2001年）』を検索したら、何と1遍しか収録されていない。

・「ひとりごと」山形県（東田川）。と云うことは、昔からヒトリシズカ（ヨシノシズカ）が当たり前に呼ばれ使われていたからなのであろうか。何か釈然としないものがある。

短詩系（俳句等）には多くの作品がある。

- ・花穂一つ一人静の名に白し
- ・きみが名か一人静といひにけり
- ・今日の日も一人静もかたぶきぬ
- ・萌え出づる一人静を彼方此方に
- ・一人静花のさびしさ見せもせず

水芭 犀星 柳芽 普羅 南畦

・一人静二人静も摘む気なし

久女 蕪城

・いつの日かひとりしずかの葉ぐさしおろ

・藪陰にひっそりとしてすがやかに
一人静の花さきました 鳥海 昭子

・別名 眉掃き草

・花言葉 隠された美

・誕生花 4月3日

図鑑の内と外

植物私記③8 オノエヤナギ

佐鳥 英雄

はじめに少し時事的な問題にふれます。少し前、原子力ムラというのが問題になりました。それを壊すのではなく温存する方向に、また日本人は走り出しています。「古い付き合いの有識者を頼みに、国交省は公聴会などでガス抜きと宣伝に余念がない。原子力に負けず、こちらのムラもしぶとい」（天声人語、13・3・14）これは八ッ場ダムについての文章です。一体国民とか人民とかはバカなのか賢いのか。私は国民ですから自分を反省すれば分かるのですが、「ときどきバカ、ときどき賢い」：のように思われます。（ここはどうし

ても平均値的に物申すことになります。スーパーで買い物をしてまともにカートを片づけない人とか、ゴミ投棄禁止の看板があるのに、そこにご丁寧にも大きな袋のゴミを2つも3つも投棄する人とか沢山います。シエクスピアもどきに言えば、〈利口はバカ、バカは利口〉ということでしょうか。半分バカな国民はよく騙されます。自衛隊はその出発の時、「警察予備隊」でした。「軍隊だ」と少数の人々が見抜いていましたが、「予備隊なら、ま、いいか」が大多数でした。隊はどんどん成長して、今では総理大臣と呼ばれる人が、「軍隊です」と言います。こうして騙されたことは歴史の事実ですが、騙された人からの反省の弁というの私は寡聞にして知りません。人間マズイことはナカッタヨウに努めるものです。

私はこのエッセイの題を『図鑑と内と外』と題しています。この題を思いついた時、私の心は、「図鑑にすでに書いてあることと、図鑑にはないこと」を記してゆこう：ということでした。「図鑑にはないこと」というのがつまり私のオリジナルなのですが、残念ながら大したオリジナリティもないままとなっています。そのために多少余談が増えてしまう：という結果になっているのですが、それに合

わせて、私の見る現下の現状ということがあります。それは、日本人が第二次世界大戦から生み出した高い理想、つまり地球上から「恥かしい戦争」という悪事を無くそうという、

見方によつては夢想とも見えるその大理想がいまぐらぐら揺れている状況を見てみると、ロッキードやグラマン戦闘機の下を逃げまわった人間の一人として、黙っていられない：という気持が強くなっているからです。こゝはその場所にそれほどふさわしいとは思っていませんが、やつぱりひとことと、つい思ってしまうのです。私は年が明けて80歳です。もう少しこの世を見ていたいので、まだ遺書というつもりはありませんが、言うべき（と私が思うこと）は言う：という気持が昂じているのです。

ここで少し話が逸れますが、先日桐生観察の森で、所長の寺内（優美子）さんと話しておりました。苦労して育てたヒトツバハギをイノシシが掘るので、その対策などが話題だったのですが、談たまたま森の25周年のこととなり、「森の記録・小さな発見をまとめてみる」とい」という私の提案に、「それなら沢山あります」ということでした。前にも記しましたが、小さな発見なら、私もそれなりに持つ

ていますし、これからもそういうことを書きつづつてゆくつもりなのですが、その途中で私が時事や政治に容喙するのは、心底の怒りから：と見ていてください。

閑話休題。13・2・16と13・2・23の（週刊現代合併号）に、〈特別寄稿〉として、曾野（綾子）さんの『この人生、この世界、きれいで済まない』という一文がありました。「体罰で大騒ぎするこの国で」というリードがついていて、誰でも、へあ、体罰くらいで大騒ぎするな」という論旨だと知れるのですが、確かにジャーナリズムが大騒ぎしている時期でもあり、私も関心があったので、一読してみました。ご承知のように、週刊誌というものにはいろいろな特徴があるでしょう。

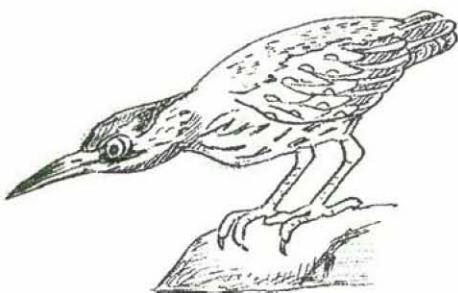
- ① 大したことでもないのに大袈裟だ。
- ② 記事は2〜3ページと云うことが多く、登場者や筆者は意を尽くし難い事が多い。など。私もそういうことは念頭にして記事を読んだのですが、その論旨は、
- ③ いじめのない社会なんてない。これは教育の制度や政治のやりかたとは関係ない。

② いじめは、精神の幼い人々には楽しい

のだからなくならない。

③ だから「いじめに耐えて生きてゆける強い子どもたちをどう育ててゆくか」が大切なのに、誰もこのことに言及しない。

おやおや：と私は思いました。細部を除けば私の考えかたによく似ていました。私の考えでは生物の社会は、絶えず自己主張してないと潰されるか、いじめられるかするようになっていくからです。動物を飼うと、躯の小さいもの、気の弱いものがいじめられます。これがいじめの基本形で、だから、いじめられる側が強くなければならない：というのは全く同感です。ただし、いじめられる側が強くなりきれない場合、周囲の助けが必要となってくるでしょう。曾野さんは、へいこ



ササゴイ

と言うのです。ただし、この先を読んでゆきますと、たちまち私の考えと真逆（ちよつと国語辞典にはありません）になってゆくのです。

① もともと人間はとんでもなく不平等に生まれついているのだから、「みんな平等・みんないい子教育」はまちがいだ。

② 世の中想定外だらけなんだから、「福島原発事故は想定外」という言い訳は許さん：はおかしい。

① について、佐鳥は考えます。

世の中不公平だから、人はなるべく平等にしようと努めているのではないか。

② について、佐鳥は考えます。

世の中そんなに想定外だらけなら、「原発安全宣言」に、曾野さんは一度でも「それはウソ」と批判でもしたのだろうか。

そして、戦時中、文部省のやった英語追放運動について、曾野さんは女学校2年の時の自分の体験を語ります。

こつそり英語の本を読んでいて、先生に見つかりドキリ。先生いわく、「しつかりやんなさい」お母さんも、「そんなことはおかしいから、英語の勉強はつづけなさい」と激励してくださいったとのこと。（余談ですが、私の母も私が中学に進んだ時、まず訊ねたのが「英語

の時間はあるか」でした）曾野さんはこうして軍国主義の時代でさえ、自分が正しいと信じる人々はいたとおっしゃって、ダムや高速道路を作った人々が、「彼らは自然を破壊した」「大手ゼネコンはみな悪者だ」と、「いわば石を投げ」られて来たと主張します。

このことについて、佐鳥は考えます。

なるほど、瀬戸大橋を渡った時、その工事を完成した人々の技術力と精神力、ひいては人間というものの偉大さに感動していた私は私は忘れるハズもないのだけれど、その一方でそのゼネコンが、この国土をもう取り返せないほどに荒廃させてしまったことも忘れる訳にはゆかない。このむづかしい矛盾を止場する道はなかったのだろうか。ほんの1つだけ例示すれば、馬追虫（スイツチョ）が滅びた時、次の歌も滅びるのです。

馬追虫の髭のそよるに來る秋は

まなこを閉ぢて想ひ見るべし

（長塚 節）

この点で私は保守主義者です。

ここまで書いてきて、なるほど、政治的な議論は果てしなく、しかもしんどい：で、以下次号として、オノエヤナギのことを少し記します。

シダの世界・タケ、ササの世界、みんな専門家が必要なほど量も多く複雑です。○○科でも大世帯の場合同じです。スミレ科・イネ科・カヤツリグサ科とか。こんなむづかしい分野に専門家が登場するのは、私なんか不思議ですが、ここにも人間の偉大さがあるのでしよう。余談ですが、先日キノコの専門家である須田（隆）さんから電話。「鳥取大学のある方の研究のお手伝いなのだが、ムクノキの大木はどこにあるか」会ってから聞くと、ミナミタマチョレイタケというキノコを探してるという。今のところムクノキの枯れ枝だけに生じるといふ。二人で三時間ほど探し、多少の収穫がありました。

ヤナギ科もやや大世帯。約50種ですが基本的に雌雄異株なので、100種みたいな世界です。最近の学者（といっても故人）として、木村有香博士がおりました。平凡社の「日本の野生植物」のヤナギ科は木村さんの担当です。こういう研究は日本中はおろか、世界を飛び回らなければなりませんから、金と時間が先立ちます。私などが門外漢にとどまる理由です。オノエヤナギは、木村さんによれば、「北海道・本州・中国・四国・千島・カムチャツカ・アナドウィル・ウスリー・アムール・中国東

北に分布し、一般に水辺を好む」というヤナギです。別名カラフトヤナギですから、カラフトにも分布するのでしょうか。〈群馬県植物誌〉で見てみましょう。

「産地：多野山地・足尾山地などから利根川源流部までの各山地。備考：山地の河畔。ややまれ」

このオノエヤナギ、〈新牧野日本植物図鑑〉によれば、「尾上柳」で、「牧野富太郎が土佐の山中で採集したもので、峰の上（おのえ）ヤナギの意味である」といいます。つまり、山中に多く河原にはない：と、私はこの春まで考えていました。ところが、渡良瀬川に通ううちに、河原にかなりあることに気づきました。渡良瀬川のヤナギは、少なくとも桐生市域では、ネコヤナギ・ナガバカワヤナギ・ジャヤナギ・イヌコリヤナギ・タチヤナギ・マルバヤナギの6種と見てきたので、変更です。大木はありません。雄花穂は薄黄色で沢山つきます。雌花穂も沢山で、茶褐色つぼく見えます。花は中間かややおおいほう。若葉の先端以外の縁が裏側に巻くのがよい特徴です。こういうことをするのはヤナギの仲間では他に、キヌヤナギ・エゾノキヌヤナギ・エゾノカワヤナギ・ユビソヤナギ・ヤマネコヤナギ

くらいです。

なお、ヤナギ科では次のようなことがあります。

① 平凡社ではキヌヤナギとエゾノキヌヤナギを別種とするが、〈新牧野日本植物図鑑〉では同種とする。

② ネコヤナギとタチネコヤナギとハイネコヤナギに分けることができます。

③ 〈群馬県植物誌〉ではユビソヤナギとネコヤナギの雑種として、フカオヤナギを分けるが、平凡社にはない。

などですが、門外漢の私に論ずる力はありません。

群馬の地質

石棒

飯島 静男

「ちょっと見てもらいたい」とT君が出してきたのは淡黄白色の石棒、榮養ドリリング瓶くらいの大きさである。表面がボロボロだったようで、崩れないようにプラスチックコーティングしてある。発掘時の泥つきのままである。

T君は軽石と言ったが、凝灰岩である。肉眼

で粒子が見えるくらいの、やや粗粒の火山灰が凝固したものである。

すでにP社が鑑定していて、岩石名は軽石質凝灰岩、主要鉱物は斜方輝石・角閃石・石英だ。してみると火山灰（火山ガラス）がすっかり沸石化した凝灰岩である。P社鑑定書はこのような凝灰岩は第四紀の火山には産せず、新第三紀層の分布する地域にある、したがって、石棒の原石は出土地の倉渕ではなくて、四万・中之条方面から採取した可能性がある。と述べている。

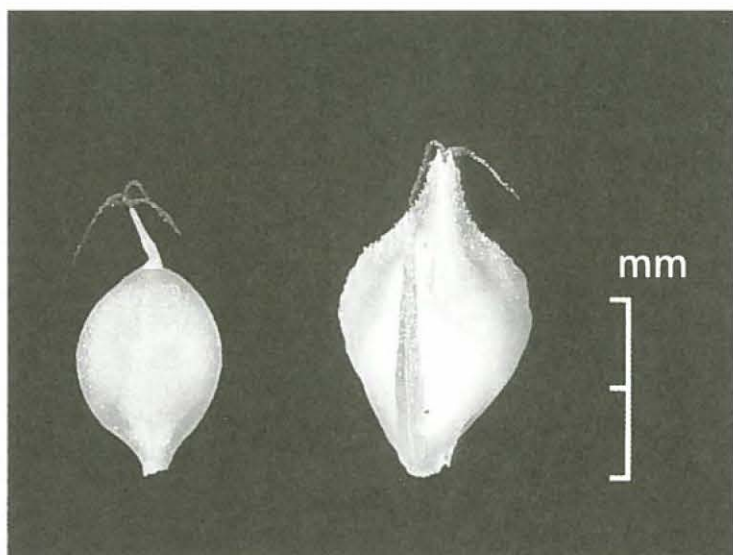
T君の持論では小型の石棒は地元の石材を用いて作るのが通例だそうで、原産地を倉渕に求めたい。村じゅう歩いたのならば、こういう石を見た覚えがあるだろう、さあどうだというのが用件であった。返事は「ない」に尽きるが、四万・中之条方面にしても岩石の変質度が高く、沸石岩はほとんど期待できず、むしろ地蔵峠以南を探したら、と助言した。「でもまだ（村内に）未発見の地層があるかも知れない」と、人の言うことを信じない口ぶりなので、太え野郎だと思ったが、それはこちらの思いちがい。

植物をミクロで見る (10)

マスクサ

青木 雅夫

最近では北関東でも、マテバシイが野生化している場所がある。元々の産地は九州、沖縄の日本特産種であるが植栽の歴史が古いのでよくわからないという。林内に点々と実生株が見られるからそのうちにマテバシイの林にな



マスクサ

るかもしれない。その薄暗い林下に草丈50cmほどのマスクサが群生していた。マスクサを見つけたら雌しべ柱頭をルーペで見て3岐、これの確認が欠かせない。また果胞のくちばしは二つに分かれている。縁に広い翼がありきれいな卵形をしているのが特徴だ。写真にあるが雌小穂の鱗片は中肋が緑色で果胞より長くならない。スゲ属マスクサ節に属する他のマスクサ類はない。小穂が雄雌性で、よく見られる雄小穂と雌小穂の区別がない。小穂の下部に雄の部分がある。

残された自然の中で (161)

サシバの谷

谷畑 藤男

私が初めてサシバを観察(谷畑1988)したのは25年前、吉井町上奥平の谷津田である。サシバは「里山生態系の指標種」であり、代表的な「渡り鷹」でもある。観音山丘陵では鐺川北側の高崎市奥平(旧吉井町)周辺がサシバ生息地である。谷に沿って帯状の水田(谷津田)が葉脈状に作られ、「ため池」も多くある。昆虫・両生類(カエル)・爬虫類(トカゲ・ヘビ)などを捕食するサシバにとって、

谷津田は格好の繁殖地になっている。

サシバ調査を始めた頃、サシバはなぜ百衣観音や荒久沢周辺の林で繁殖しないのかという疑問があった。

納得できるの答えは、谷津田学術調査報告書の「地形・地質」にあった。群馬県は1996年から2000年までの5カ年にわたり、西毛地域における谷津田お自然環境調査を行った。この報告書の中に「観音山丘陵では谷津田の分布に福島層・吉井層が重なり、板鼻層分布域には谷津田の発達はない。この事実は基盤岩の岩相と深い関係があると考えられる。(略)泥岩の卓越した地域に谷津田が発達し、砂岩・礫岩の多い地域にはたとえ丘陵地であっても、谷津田は開発されなかったと考えられる。(高橋 2002)」という説明があった。

観音山丘陵は新生代第三紀地層が基盤で、かつては海底であったことが知られている。上奥平など粘土が堆積した地域に谷津田が開発され、白衣観音周辺など砂礫が堆積した地域はV字谷となり水田ができなかった。

はるか昔の海底が隆起し丘陵となった。そこに人が住み着き、泥質の谷間に水田やため池を作り稲作を行った。ため池・水田・雑木

林の尾根がセツトになった谷津田環境はサシバにとって良好な繁殖地になった。インターネットで観音山丘陵の地形（航空写真）を見ると、谷津田地形やため池の分布がよくわかる。しかし現在では丘陵地で最も目立つ地形はゴルフ場。この人工的な草原にサシバは生息できない。

今年の四月、開発を免れた上奥平の谷津田にサシバが戻ってきた。谷間の電柱にサシバが止まり、耕地や畦で動く小動物を待ち伏せる。かつて谷津田は葉脈のように枝分かれし、小さな谷奥まで水田があった。サシバは谷津田を巡回し獲物を狩り、雛を養った。ところが現在は谷奥の水田から耕作放棄が進んでいる。放棄された水田には草木が侵入してサシバの餌場は消えていく。調査を始めた25年前に比べ、上奥平を含む西毛地域の谷津田地域で繁殖するサシバは半減している。

「サシバの里物語（2012）」によると、渡りサシバの主要中継地である沖縄県宮古島では、1970年代から毎年、宮古野鳥の会によって秋にこの島を通過していくサシバの個体数がカウントされている。1970年代から1980年代前半までは毎年3万羽から5万羽を超えるサシバが観察されていたが、

1990年以降は2万羽前後まで減少しているという。サシバの運命は里山の保全と農業の維持にかかっている。

参考文献

谷畑藤男（1988）

サシバの季節 群馬の自然69号

高橋武夫（2002）

谷津田（西毛地域）学術調査報告書 群馬県

サシバの里物語（2012）

NPOオオタカ保護基金



サシバ

谷川岳山麓エコツアーコース散策

千葉県松戸市 部 正雄

2013年6月11日、梅雨入り後の曇り空のもと友人と土合橋から湯檜曾川沿いの虹芝寮を経由し国道291号を幽の沢、一ノ倉沢とロープウェイ乗り場まで自然を楽しみました。

土合橋から虹芝寮までは今も冬季に毎月のように訪れている親しみのあるルートで湯檜曾川の積雪の上を歩き、時には数回の交代ラッセルでも撤退を余儀なくされたり、逆に思いがけず簡単に到着したり雪の難しさを身を持って実感しているお気に入りの場所です。

雪の無いエコツアーコースを散策しようと目論んだのは群馬県自然保護連盟の吉田事務局長に無理をお願いし関さんからお送り戴いた水上町エコツアー企画に反映されている「谷川岳の自然科学研究」を実際に体験しようと思ったからです。

土合橋際から歩き始めて直ぐ緑の豊かさや色の濃さを強烈に感じました。雪の季節は、笹や低木が雪で覆われ冬季以外はこんなに緑が濃いかと改めて驚きました。ミズナラ、

ホウノキ、トチノキ、ブナの巨木やウリハダカエデの翼果が歓迎してくれているように感じました。ガマズミ、オオカメノキ、ウノハナ、ハコネウツギの花々の色が鮮やかに感じられエゾアジサイが間もなく開花すれば花街道になると思えました。

行程に真新しい標識が設置されており遊歩道として整備していることが伺われました。「サルに餌を与えないください」の警告文は自然を大切にするために順守すべきで、エコツアーコースとして人気が出れば不心得者が出ないよう具体策が必要と思いました。一方「熊出没注意」の警告は出会いがしらの遭遇を避けようと前週楽しんだ尾瀬を思いだしホイッスルを取り出し吹きまくりました。溪流釣りを楽しんでいた方々にはうるさいと感じられたと思います、熊対応はこれから大切なことだと思います。ただ尾瀬に比較し熊棚が間近に見られなかったのは少し残念な気もしました。

都会で間近で見る機会が少ない七夕飾りのようなクマシデの果穂を手にした友人はビールのホップのようだと驚き、自然の中で身近に触れることができる体験は意義があり、見るだけでなく五感で感じられるエコツアー

コースであり続けてほしいと思いました。

湯檜曾川対岸の白毛門山系のアパランチシユートの壮大さ、雪の季節に訪れた時、湯檜曾川をせき止め乗り越えたと思えるデブリを目の前に圧倒されました。今回雪崩が運んだ大量の土砂堆積物と倒木を見て谷川岳エコツアーの大きな目玉と実感しました。

虹芝寮から国道に出るとき若い女性二人連れとクロスしました、地図を片手に標識があったのでここまで来れた。これから土合橋まで散策すると聞かされ、今後は少しずつ若い人が訪ねてくれる予感がして、きめ細かな解説書の保守管理が大切になると思いました。

国道は幽の沢、一ノ倉沢の壮観さと同時に今を見守る慰霊のレリーフは日本三大岩場である谷川岳の象徴でした。国道沿いの他に類を見ないブナ林の素晴らしさは解説文なり案内板なり、もっと知らしめる方策があればと勿体無い気がしました。時間的に四時間程度で体力的にも無理のない当該エコツアーコースは絶対にお勧めと思った一日でした。



ルリビタキ

情報提供ありがとう

その一 シロマダラ

(トカゲ目ナミヘビ科)

提供者…須田 亨(一般)

採集地…富岡市妙義町八木連

採集日…2012年11月7日

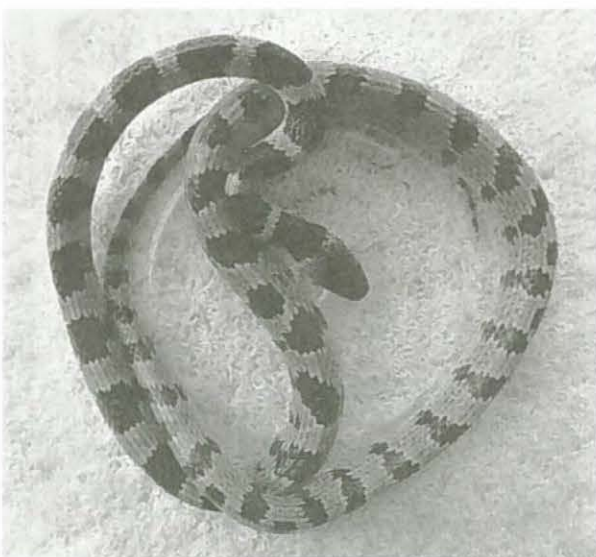
特記…全長 五五〇cm

体重 一七〇g

群馬県評価…準絶滅危惧

参考文献…群馬県レッドデータブック

動物編2012年改訂版



シロマダラ

提供者…木下 弘(会員)

塩沢中学校科学部生徒

調査地…新潟県塩沢町

調査時期…1997～99年

調査対象…両生類14種の生息調査

付 記…新潟地区(佐渡島)の新種、

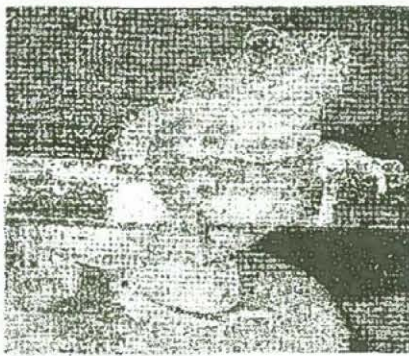
サドガエルの情報が紹介される

平成25年度定時総会は、5月11日群馬県生涯学習センター第2研修室で開催されました。出席者11名(本人出席20名、委任状91名)。総会成立の要件「正会員総数の5分の1」を満したため総会成立を確認し開催した。次いで司会者(事務局長)より議長の選任を諮ったところ、岸 好孝氏を満場一致で選出。議案の審議にあたる。議長より議事録署名人に

吉田龍司事務局長、佐藤康弘理事が指名され、議案の審議に入る。

・第1号議案 「平成24年度行事報告」並びに
・第2号議案 「平成24年度決算報告」について事務局長から報告が行なわれた。次いで田口秀雄、反町實男両監事から監査報告があり、「会計は適正かつ正確である」むね監査報告が行なわれた。その結果両案について承認を諮ったところ、反対意見なく満場一致で承認された。

新種サドガエル「ギューン」と鳴きます



サドガエル 広島大の
三浦郁夫准教授提供

新潟県・佐渡島で15年前に見つかったカエルが新種とわかり、サドガエルと命名された。新種の宝庫である

南西諸島を除くと、国内でカエルの新種が見つかるのは22年ぶりという。広島大、新潟大、横浜市繁殖センターのグループが11日、発表した。

体長4センチほどのこのカエルは、新潟大の関谷国男教育支援員が発見。国内の水辺でよく見られるツチガエルと似ているが、一回り小さいことや、背中の模様、黄色い腹部などの違いがあり、三浦郁夫・広島大准教授らが遺伝子や繁殖能力を

調べたところ、新種とわかった。「ギューンギューン」と鳴く。

20万～80万年前に佐渡島が本州から分かれたあと、固有の進化をとげたとはい。

サドガエルは冬場、放鳥されたトキのエサにもなっている。関谷さんは「トキのためにも、サドガエルのためにも、生息地である水田環境の整備が大切だ」と話す。

② デジタル版に動画

(竹石源子)

朝日新聞 新潟版C 2012.12.12

・第3号議案 「25年度行事案」について事務局長から説明が行なわれた。行事案は概ね昨年同様であるが、「清掃登山」の名称が変わり「身近な自然観察と保護活動」となり、赤城山サクラソウ自生地と榛名沼ノ原の特定外来植物オオハンゴンソウ駆除作業が新たに加わった。昨年から継続事業として赤城山鍋割高原環境整備事業(笹刈り)も行われることとなり、審議の結果承認された。

・第4号議案 「25年度予算案」について事業収入「3,723,000円」、事務運営・事業費「5,000,000円」。時期繰越金「10,144,629円」を計上し承認を諮ったところ、執行部原案通り満場一致で承認された。

平成24年度会計報告

収入の部

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
前年度繰越金	14,002,299	14,002,299	0	
会 費	600,000	611,000	11,000	
環境調査受託料	4,700,000	0	-4,700,000	ハツ場ダム建設所 受託事業
清掃登山と自然観察受託料	830,000	830,000	0	群馬県自然環境課 受託事業
自然観察教室	600,000	610,000	10,000	
自然観察会	60,000	32,400	-27,600	
特定外来植物の駆除	200,000	0	-200,000	
ツツジ保全	450,000	493,500	43,500	
寄 付 金	500,000	333,000	-167,000	
利 息	4,000	3,259	-741	
雑 収 入	0	192,000	192,000	
合 計	21,946,299	17,107,458	-4,838,841	

支出の部

項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
事務運営費	3,480,000	4,148,990	668,990	
自然観察会	230,000	109,600	-120,400	
清掃登山	50,000	43,060	-6,940	
サクラソウ等の保護 他	20,000	21,500	1,500	
環境フェスティバル	20,000	17,739	-2,261	
自然観察教室	600,000	573,552	-26,448	
会報「群馬の自然」発行	450,000	429,028	-20,972	
自然保護対策委員会	30,000	8,000	-22,000	
自然環境調査	1,500,000	0	-1,500,000	
特定外来植物の駆除	150,000	0	-150,000	
ツツジ保全	250,000	334,360	84,360	
予 備 費	580,000	0	-580,000	
次年度繰越金	14,586,299	11,421,629	-3,164,670	
合 計	21,946,299	17,107,458	-4,838,841	

現金 78,351+預金 3,250,001+ゆうちょ 137,040+定期 7,956,237 = 11,421,629

平成25年4月25日 上記の通り相違ありません。

監事 反町 實男 監事 田口 秀雄

平成25年度予算案

(25年4月～26年3月)

平成25年5月11日

特定非営利活動法人 (NPO法人)

群馬県自然保護連盟

収入の部

支出の部

項 目	金 額	項 目	金 額
繰越金	11,421,629	事務運営費	3,000,000
		地代家賃費	766,800
事業収入	3,723,000	水道光熱費	130,000
会費収入	600,000	職員費	1,800,000
観察会参加費	50,000	税金	80,000
観察教室参加費	750,000	諸経費	223,200
県清掃登山等受託料	800,000		
特定外来植物の駆除	20,000	事業費	2,000,000
鍋割高原環境整備	1,000,000	桜草・ゴマシジミ	20,000
寄付金	500,000	観察会	100,000
利息	3,000	清掃登山	45,000
		観察教室	700,000
		環境フェスティバル	20,000
		会報発行	430,000
		自然保護対策委員	9,000
		自然環境調査	0
		特定外来植物駆除	20,000
		鍋割高原環境整備	600,000
		予備費	56,000
		次期繰越金	10,144,629
合 計	15,144,629		15,144,629

編集からのお願い

○次号の特集は「群馬の蝶を守る」です。ヒメギフチョウの保護活動を中心に紹介予定です。原稿締め切りは9月15日です。

自然保護に関するご意見や観察記録もお待ちしています。事務所宛にお送りください。よろしく願います。

○いつもたくさんのお原稿をお送りいただきありがとうございます。編集の都合で次号より、一作品は原稿用紙五枚までとさせていただきます。ご協力願います。

議長は議案審議が総て終了したため閉会を申し退壇した。司会者は情報や研究成果についての提供を呼びかけ質疑応答を提案した。

①「コオニユリとオニユリ」のムカゴについての研究成果。

②赤城山サクラソウ自生地、数度の観察会

③高崎観音山丘陵の棚田と生物の生息関係

④富岡地区の棚田とタガメの生息環境

⑤炭焼き釜の石積構造と炭散布による影響

以上情報の共有のため話し合いを持ち、時間が押したため事務局は閉会を宣言し散会した。

事務局日誌(169)

- 3月5日 赤城自然塾活動報告事前会議
- 3月9日 赤城山ジョイント活動報告会
- 3月14日 「会報春号」校正・印刷所渡し
- 3月22日 前橋市児童文化センター
- 3月23日 「前橋市パートナーシップ事業」実施報告会
- 3月26日 会報『群馬の自然・春号』印刷納品
- 3月27日 県自然環境課打合せ
- 3月28日 会報『群馬の自然・春号』郵送
- 3月30日 3月理事会 14名出席
- 4月3日 理事会議事録郵送
- 4月4日 県生涯学習センター・施設使用料納入
- 4月5日 県自然環境課幹部来所(挨拶打合せ)
- 4月6日 赤城山の自然保護活動推進協議会
- 4月6日 赤城姫を愛する集まり「総会」
- 4月7日 高尾山自然観察教室39名参加
- 4月14日 ぐんま自然観察指導員会「総会」
- 4月15日 赤城山環境ボランティアガイド養成会議
- 4月16日 前橋児童文化センター
- 4月17日 県自然環境課・行事打合せ
- 4月22日 県立勢多農高・サクラソウ観察会打合せ
- 4月23日 鳴神山(保全活動)現地駐車場下見
- 4月24日 24年度会計監査
- 4月25日 赤城自然塾運営会議
- 4月26日 県自然環境課挨拶
- 4月27日 4月理事会 14名出席
- 4月29日 前橋市児童文化センター打合せ
- 5月1日 県自然環境課・25年度行事打合せ
- 5月4日 赤城姫自然観察会
- 5月7日 赤城山サクラソウ自生地パトロール
- 5月7日 渋川市立南雲小/全校観察会指導
- 5月8日 5月行事傷害保険加入手続き
- 5月10日 赤城山覚満淵「ササ刈り作戦」下見
- 5月11日 25年度「定時総会」
- 5月12日 鳴神山自然観察会と保護活動10名参加
- 5月15日 県委託事業・見積書提出
- 5月18日 赤城山サクラソウ自生地自然観察会と保護活動21名参加
- 5月19日 赤城山覚満淵ササ刈り作戦153名参加
- 5月20日 NPO赤城自然塾理事会・定時総会
- 5月21日 法務局・25年度登記
- 5月23日 山と森の月間推進協議会総会
- 5月25日 群馬県「24年度事業報告」書提出
- 5月26日 自然保護対策委員会「叶山鉱業所」現地視察13名参加
- 5月26日 赤城荒山高原・荒山自然観察会17名参加
- 5月29日 会計士 税務指導
- 6月3日 県自然環境課行事打合せ
- 6月6日 赤城山覚満淵シダ駆除作戦 30名参加
- 6月11日 サンデンフォレスト(株)環境調査打合せ
- 6月12日 赤城覚満淵「植生復元」現地会議10名
- 6月13日 榛名沼ノ原「特定外来植物」駆除現地地下見 4名
- 6月16日 赤城環境ガイドボランティア講座・stepⅡ
- 6月17日 会報『群馬の自然・夏号』編集会議

表紙の説明

ウバタマムシ(姥玉虫)

甲虫目タマムシ科、タマムシ属の昆虫。本州・対馬、朝鮮半島、中国北部まで分布する。成虫の体長24〜40mm。一見地味だが光に当たると金銅色〜赤銅色の金属光沢が確認できる。上翅には縦の深い溝が複数あり、生時には全体に黄灰色の粉で薄く覆われる。餌はマツ類の葉で成虫はマツ類の枯木によく集まり、幼虫はマツ材内のカミキリの幼虫などを捕食する。出現期は6月〜10月。成長するには2年以上かかる。針葉樹の切株で繁殖するが生きた木には産卵しない。木の皮に擬態する大型のタマムシである。

本の紹介

★「鳥・人・自然」樋口 広芳

東京大学出版 2,800円
著者のこれまで調査・研究してきた鳥の世界がわかりやすく語られる。「鳥の貯食」「三宅島の鳥類相」「渡り鳥の衛星追跡」など興味深いテーマが並ぶ。特に衛星と発信機により解明された「ハチクマの渡りのコース」は感動的だ。

事務局だより

・5月11日県生涯学習センターに於いて定時総会を開催しました。議案は事務局原案通り承認されました。詳細は会報をご覧ください。

・春の叙勲で亀井健一理事が「教育功労」この道一筋地域に貢献として「瑞宝小綬章」及び群馬県総合表彰を受けられました。また
・25年度県総合表彰「環境部門」で松村行栄理事が郷土に貢献として表彰されました。

・25年度愛鳥週間に於いて、田口秀雄監事が野生生物保護功労者として日本鳥類保護連盟会長褒状を授与されました。夫々栄誉ある授章です。誠にありがとうございました。

・5月19日赤城山覚満淵で「ササ刈り作戦」が行われました。当日は前橋市長をはじめ153名の方が除草作業に参加協力されました。
・7月20日(土) 赤城山覚満淵自然観察会はニッコウキスゲの開花が期待できます。どうぞ除草後の成果を充分お楽しみ下さい。

新会員紹介(敬称略)

川島 博司様(みどり市)
横尾 典子様(高崎市)

寄付金

山下由紀子様	金 8,000円
高野 幸枝様	金 8,000円
匿名 1名様	金 2,000円
道下 直子様	金 3,000円

寄贈図書

赤城姫を愛する集まり様
・「赤城姫第25号」
関 敏雄様・「谷川岳の自然科学研究」

会費納入のお願い

会計年度は4月1日から翌年3月31日まで。皆様のお力添いで自然保護活動の輪を広げていきたいと念じて、います。振替用紙を同封しました。お早めにお納め下さい。

群馬の自然 169号

発行日 平成25年7月
発行人 NPO群馬県自然保護連盟
編集人 谷畑藤男
発行所 群馬県自然保護連盟事務所
〒370-0046
高崎市江木町610-10
電話 027-324-5706
携帯 090-4833-5789
振替 00320-6-13239
会費 2,000円(年間)